

# 砂丘

発行：独立行政法人 国立病院機構

鳥取医療センター

発行責任者：柏木 徹

## 理念

1. 人類愛に基づく、質の高い医療を提供する。
2. 患者本位の医療体制を確立し、十分な説明と同意の下に、自由意志を尊重し、人としての尊厳を守る。
3. あらゆる情報の公開に努め、医療人としての自己研鑽に努める。

## 看護相談室開設のご案内

入院・外来を問わず患者様とご家族の様々な悩みを共に考え、そして解決していくお手伝いが少しでも出来ればという思いで始めます。「相談したいけど・・・どこへ行ったらいいのかな・・・」

### 10月12日～開始

相談方法：直接外来診察室にお越し下さい。

日時：毎週木曜日 9:00～12:00 (休日は除く)

★説明が分かりにくいのでもう一度聞きたい。

★新しい制度について聞きたい。

★家の介護で分からないことがある。

★相談と言う程でないが誰かに聞いてみたい。などなど・・・。

相談無料・秘密厳守です。安心してご相談下さい。

**お問い合わせ先** 鳥取医療センター 0857-59-1111 (766)

外来看護師 小倉



## ● 理学療法への取り組み ●

『理学療法』とは？・・・と説明を求められても、一言では言い表せないほど広い分野に関わりを持った職種です。

リハビリテーションにおいて重要な役割を持つ一つの分野ですが、決して「リハビリテーション」イコール「理学療法」ではありません。

よく病棟スタッフや家族の方が患者様に『リハビリがんばって・・・』、『リハビリに行ってらっしゃい・・・』等と激励の言葉をかけているのを聴くことがあります。

この“リハビリ”は「理学療法」や「作業療法」、「言語療法」の事を指していて、広い意味では合っていますが、正しい意味とは言えないのではないかと思います。

当院における理学療法は、小児から老人、重症心身障害児(者)、脳血管障害、神経難病など主に中枢神経疾患を対象に身体運動機能及び日常生活動作の回

理学療法士長 細井利美

復・維持を図り、他職種と連携し家庭(社会)復帰を目指しています。

私たちリハビリテーションの一端を担っているスタッフは、患者様が機能回復や家庭(社会)復帰を目指して努力されているのを手助けすることが仕事であり、主役は患者様本人であると思っています。芝居で言えば、黒子がどんなにいい仕事をしていても主役がいい演技をしなければいい舞台にはなりません。

私たちは、スター（患者様）がいい演技ができて（機能回復）、鳥取医療センターが素晴らしいステージとなるよう、日頃の研鑽を積み重ねていくように努力していかねばと考えています。



## ● 摂食・嚥下障害への取り組み ●

これまで、咀嚼力低下が見られる方には「刻み食」や「みじん食」で対応し、摂食・嚥下困難な方には



変更前



変更後

「ミキサー食」を、というのが一般的な考え方だったように思えます。しかし「刻み食」や「みじん食」は口の中でバラバラとしむせやすく、また「ミキサー食」は“見た目が悪く食欲をそそらない”、“使われている食材が分からない”といった食に対するQOL

(生活の質)を満足する物ではありませんでした。

高齢者社会に向け摂食・嚥下障害をもつ人々は後も増え続けていく事と思います。また、“脳卒中患者様”を中心に脳外術後の回復には十分な栄養補給は急務です。そのようなことから栄養管理室では、今年の8月から咀嚼力の低下及び摂食・嚥下障害が見られる方を対象とし「ソフト食」の提供を始めました。

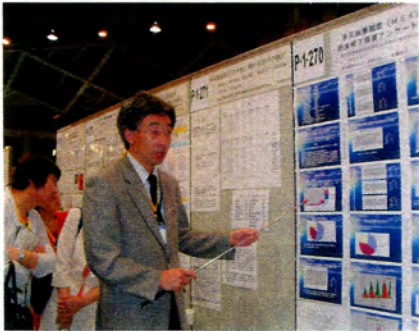
この「ソフト食」とはミキサー食の前の段階の食形態で、舌でつぶせるくらい柔らかく、しっかり食べ物の形がある、喉越しの良い見た目もきちんと美味しそうな食事のことを言います。

食材を柔らかくふっくら炊くことはもちろんですが、餡をかけたり、とろみを付けることでさらに嚥下しやすいよう工夫をしながら調理している為、お年寄りの方を始め皆様には、これまで以上に安全に召し上がって頂けると思います。

### 栄養管理室

# ● 学会に参加して ●

副看護部長 難波 富子



金藤神経内科医長

爽やかな秋晴れの中、各地で学会が開催されています。

9月2日米子コンベンションセンターにおいて、第3回医療マネジメント学

会鳥取地方会が開催されました。この学会はクリティカルパス研究会から発展し今では医療安全、医療連携、質管理、効率化、医療危機管理などあらゆる問題に取り組む学会です。当院も現在使用しているクリティカルパス、これから使うクリティカルパス等4題を発表しました。

2病棟では萩原恵子看護師が終夜ポリグラフィーを、引地倫代看護師が結核DOTSを紹介し活用と評価について述べました。また精神科においては9病棟の田中美智子看護師がアルコール依存症、11病棟の岡田佳那子看護師が統合失調症急性期のクリティカルパスを発表しました。フロアからは慢性期疾患のパスについての困難度や精神科におけるパスの有効性や現状についての質問があり、有意義な学会でした。

また9月22日23日の両日、第60回国立病院総合医学会が国立京都国際会館にて開催されました。今回のテーマは自律と自立の3年目を迎えて～歩みつける国立病院の医療～です。

オープニングに続き、特別講演、シンポジウム、パネル、ポスター、ランチョンセミナー、コンサートなどを効果的な企画で運営されていました。

当院は医師が2題（金藤神経内科医長が多系統萎縮症の摂食嚥下障害アンケート調査報告、助川臨床

研究部長が統合失調症入院患者において処方・処遇の変化が下剤及び消化器運動改善薬の処方剤数に及ぼす影響）、看護が3題（6病棟森田久美子看護師が受け持ち看護師の役割意識に関する研究～自己チェックリストを使用して～、8病棟古田道枝副看護部長が口腔ケアによる摂食機能の向上を試みて～咀嚼が少なく嚥下に時間を要する重症心身障害者への取り組みの1事例～、10病棟の小倉由紀看護師が症状回復に伴う生活リズムに合わせた睡眠確保の必要性～睡眠表を通して見えたこと～）計5題を発表しました。

プログラムを参考に同時進行されるセッションは自分の興味あるテーマを求め会場を探します。

シンポジウムにおいては国立病院医療の課題や展望についての提言に関心が高かったと思われ多くの人でした。

ポスターセッションにおいては“美しく目を引くものから、内容で勝負よ”

というもので数多く掲示され大変な熱気でした。

その中で6病棟森田久美子看護師の発表した“受け持ち看護師の役割意識に関する研究～自己チェックリストを使用して～”は一般ポスター部門で優秀演題発表賞を頂きました。日頃業務に追われる中、“看護する私を振り返る”テーマであったと思います。このような賞を頂くことで今後の励みとなりました。

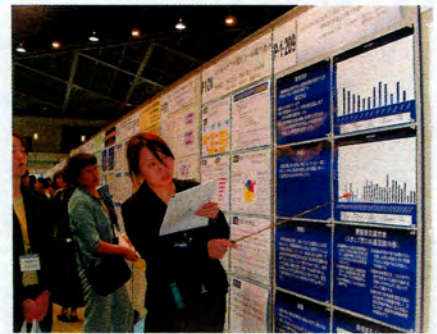
学会に参加することは情報を得るだけではなく、刺激を受け次のエネルギーを生み出す糧となります。発表された皆様は達成感と共に自信に繋がったことと思います。

これからも皆様と共に学会発表に積極的に参加し医療の質向上に努めて行きたいと思います。

看護部では平成18年度の看護研究も終盤を迎えています。又委員会も積極的に活動をしています。

これからも鳥取医療センターのチーム医療の活動成果を是非院外で発表して行こうと思います。

発表者の皆様、そして発表をサポートして頂いた皆様お疲れ様でした。



小倉看護師



森田看護師

# 外来診療科担当医表

独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター

平成18年10月1日現在

			月	火	水	木	金
内科			松本	岩田	松本	塩	松本
内科(検査)				小西		小西	
精神科	初診	診察室6	坂本	土井	松島	林	高田
		診察室7	池成	池成	坂本	土井/岡田	林
	再診	診察室1	高田	松島	土井	高田	土井
		診察室2	松島	坂本	川口	助川	坂本
		診察室3	池成	林	林	池成	池成
		診察室7					岡田
		診察室8	岩田	岩田	岩田	岩田	岩田
神経内科		1	下田	岡田	井上	金藤	土居
		2	後藤	下田	金藤	土居	井上
小児科		1	中野	小松	赤星	中野	赤星
専門外来	睡眠外来	精神科5	坂本		高田		高田
	神経内科(予約制)		失語症 パーキンソン病	高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病	嚥下障害 失語症	失語症 パーキンソン病
			下田	下田	井上	金藤	下田
小児科(予約制)		発達外来 小枝	発達外来 赤星	発達外来 中野 予防接種 15:00~16:00			

- ◆所在地 〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876番地
- ◆電話 0857-59-1111
- ◆診療受付時間 午前8時30分～午前11時30分
- ◆専門外来診療時間 午後1時30分～午後3時00分(睡眠外来の受付時間は午前中です)
- ◆休診日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始、ただし、急患の方はこの限りではありません。
- ◆ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~nistori/>

## 身体障害者専用乗降口を設置しました。

雨天の時などにご迷惑をお掛けしておりましたが、この度、車椅子等をご利用される皆様方の専用乗降口を旧玄関に設置しました。

乗降の後には、お車を専用駐車場等へ移動していただくこととなりますが、車椅子等での移動はスムーズになると考えています。是非ともご利用下さい。

また、お車への乗降時以外は駐車禁止となりますので、ご協力をお願いします。

